

第4学年・たんぽぽ学級 学級活動指導案

平成27年1月16日（金）第5校時

安田町立安田小学校

第4学年（男子6名，女子2名，計8名）

場所 4年教室

授業者 中島 るみ（4年）

成山 景子（たんぽぽ学級）

1. 題材 「伝えよう，広げよう！」～マイ防災袋を進化させよう～

（2）カ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2. 題材について

（1）題材観

安田町は，県東部に位置し，南に太平洋を臨み，北に神峯を仰ぎ、町の中心部を流れる安田川に沿って南北に細長い地形となっており，地震発生時には津波や土砂災害の危険性が危惧されている。児童の自宅も海・山・川のどこかに面した家庭が多く，学校だけではなく家庭での防災意識を高めることも重要である。

このことから，家庭と連携しながら安田町の防災学習に取り組むことにより，地震災害等に対する知識を深め防災に対する意識を高めることで，自らの命を守ることにつなげていきたいと考えている。そこで，家庭での身近な備えとして防災袋を題材に取り上げ，家庭を巻き込んだ防災学習を仕組むことにした。本題材の学習は，本校の防災教育の中学年における重点目標「③自然災害の種類や発生のメカニズムを知り，それらに備えた学校及び地域の取り組みを理解し，活用できるようにする。」の目標に沿うものである。

（2）児童観

本学級の児童は，これまで南海トラフ地震に備え，起震車体験を始め専門家を招いての講演会や授業中や休み時間，放課後に地震発生を想定した避難訓練を予告なしで行ったり，地域の避難訓練にも参加させたりしながら，様々な方法で防災学習を体験してきた。しかし，今年度5月に実施した防災アンケートによると，「家での地震への備え」が出来ている家庭が非常に少ない。特に，持ち出し袋の準備，枕元に靴を置く，家具の固定については，ほとんどの児童が準備できていない。また，11月のアンケートでも，防災への備えが34%から47%と児童の意識は増加しているが，保護者の意識はあまり変化が見られなかった。これらのことから家庭における地震への心構えや備えについて更に学習する必要があると考えた。

そこで，家庭にも協力を要請し，命を守るための家での備えや，助かった後の生き延びるための備えについて学習することで，防災意識を向上させたいと思う。

（3）指導観

本題材については，まず学校で児童に地震についての学習を深めさせた後，事前活動で各自が実際に避難する際必要と思われる物を考えリストを作成する。本時ではリストに基づい

て持ち寄ったものを発表し合い、全員で意見を交流することにより改めてその物の有用性を検討し、自分や家族の実態にあった防災袋の中身について自己決定させたい。そして、そのアイデアを家庭に持ち帰り、家族に伝達し最終的に家族の協力を得て防災袋を家庭で一人ひとつ作成することになっている。袋の中身については、「本当に生き延びるために必要なもの」であるかを考えさせながら、徐々に各家庭の状況に合った物に変更され、内容の濃い物にさせていきたい。

事後活動として、家族に意義を伝え防災袋と一緒に準備する中で、児童と家族の防災意識も同時に向上されると考える。そして最終的には、防災袋等の備えを行う実践力と自らの意識と判断で主体的に避難する力の向上を目指したい。

3. 指導のねらい

○マイ防災袋を準備し、中身を吟味することを通して実践的な防災対策を考え、家族の防災意識を高める行動が取れるようにする。

4. 学級活動の評価規準（２）「日常生活や学習への適応及び健康安全」

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

5. 事前の指導（活動）

時数	場	○指導（活動）のねらい ・指導（活動）内容	目指す児童の姿◎ （評価方法）
	帰りの会	○我が家の防災袋の中身について、それぞれの物の必要性を考えることが出来る。 ・自分で作成した「非常持ち出し品リスト」を見直し、それぞれの物の必要性について考える。	◎地震への備えとして、マイ防災袋の中身を真剣に考えている。 【関心・意欲・態度】 （非常持ち出し品リスト）

6. 本時の指導（活動）

（１）本時のねらい

○準備してきたマイ防災袋の中身について意見交換し、本当に必要なものを考えることが出来る。

(2) 展開

	活動の内容	指導上の留意点	目指す児童の姿◎ (評価方法)
導入	1. 本時の課題について知る。	・ 非常持ち出し品リストを真剣に作成し準備したことを評価する。	
	課題：マイ防災袋を進化させよう。		
展開	2. マイ防災袋の中身を発表し、友達と意見交換しながら、話し合う。 <u>(意見交換の視点)</u> A・なぜ必要か,本当に必要か(疑問点) ・どのように使うか(質問点) ・よく考えていると思ったところ ・同じことは省く B・みんなが入れていた物(それだけ大切な物) ・その人だけの物(オリジナルな理由) 3. 非常持ち出し品リストを修正する。	・ 考えてきた非常持ち出し品の必要性について、グループで意見交換する。 ・ 意見交換の視点を与え、実践的なマイ防災袋になっているか活発なやり取りを支援する。 ・ 友達の発表を聞きながら、自分の考えを、変更してもよいことを伝える。 ・ みんなの共通点を出させ、必須となる物について確認する。	◎本時の学習を参考に,改めてマイ防災袋の中身を見直している。 【思考・判断・実践】 (非常持ち出し品リストの修正内容・発言内容)
終末	4. 修正した非常持ち出し品リストを発表する。	・ 全員で各自の変更点を確認する。 ・ 進化させたマイ防災袋を家族に知らせ、準備するよう励ます。	

(3) 準備物 非常持ち出し品カード, 教師のマイ防災袋など

(4) 板書計画

「伝えよう、広げよう！」

～マイ防災袋を進化させよう～

◎生きのびるために必要な物を考えよう。

(意見交換の視点)

A・なぜ必要か,本当に必要か(疑問点)

・どのように使うか(質問点)

・よく考えていると思ったところ

・同じことは省く

B・みんなが入れていた物(それだけ大切な物)

・その人だけの物(オリジナルな理由)

マイ防災袋を進化させた点

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

防災袋の中身

避難に必要な物
貴重品など
最低限必要な物

7. 事後の指導（活動）

時数	場	○指導（活動）のねらい ・指導（活動）内容	目指す児童の姿◎ (評価方法)
	家庭	○家族防災会議を開いて、マイ防災袋の進化内容を伝え、家族で各自準備する。	◎マイ防災袋の進化内容案を家族にきちんと伝え、実践している。 【思考・判断・実践】 (非常持ち出し品リスト)
	帰りの会	・マイ防災袋の進化版が準備できたかどうか、報告し合う。	